

見通しを持って、友だちといっしょに最後まで取り組む子

岸 田 富 夫

はじめに

U男は、I郡の小学校から本校中学部に入学後、一昨年度までの研究「からだづくり」を通して身体的にも精神的にも少しずつたくましくはなっている。しかし、まだまだ気分が左右され、自分のわがままを出すことが多く、細かいことが気になって、ぶつぶつ文句を言ったり、泣きだしたりして、最後まで責任を持ってやり通すことができない。友達の中で、自分の考えを学習に生かしながら、自分の持っている力を発揮し、中学部のリーダーとして大きく育ったU男について述べてみたい。

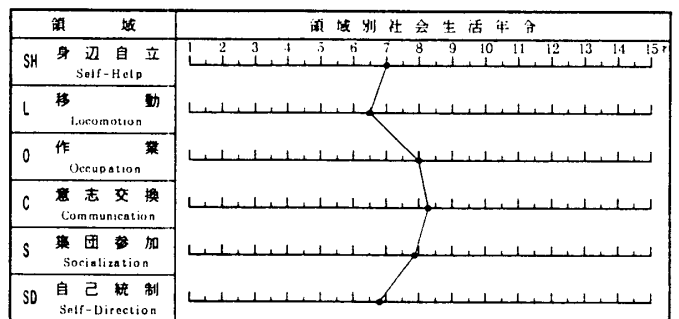
1 プロフィール

(1) 生 育 歴

- ・昭和54年2月14日生 男子
- ・吸引分娩、保育器に20日間入る。生後すぐ療育園でリハビリを受ける。
- ・3才児検診で精神運動発達遅滞と診断。
- ・A保育所、公立小学校（普通学級）を経て、本校中学部に入学。
- ・平成3年3月（入学直前）、鳥大医学部での検査結果、プラダーウィリー症候群と診断。
- ・平成3年10月鳥大医学部で停留睾丸の手術を受ける。
- ・極度の肥満。身長143.5cm、体重72.6kg、肥満度102（H5.4）。
- ・両親が共働きで、兄・妹も帰宅が遅いので、家の中で1人で過ごすことが多く、また、夜間も子供だけといった状況が月に3～4回あり、食事管理、しつけが手薄になりがちである。

(2) 諸検査等による実態

- ・田中・ビネー知能検査
MA 5歳8か月 IQ 48 (WISC-R)
VIQ 49、PIQ 54、IQ 47
- ・S-M社会能力検査では社会生活年齢は7歳4か月。身辺自立、移動、自己統制の領域で落込みをみせる。
- ・コミュニケーション・サンプルでは情報請求や提供、説明が多い。



S-M社会生活能力検査

(3) 行動・コミュニケーションの特性

- ・集団行動ではリーダー性を発揮してみんなを引っ張っていかこうとするが、肥満のためついていくことができず、動作が緩慢になる。

- ・自分の気に入らないことや、思い通りにならないことがあると、ふてて机の上で寝たり、床に寝そべって泣いたりすることがある。
- ・人懐っこく、表出言語も多いため、初対面の人には何故養護学校にいるのかと不思議がられるが、理解力はそんなに高くなく、やや、言い放しの感がある。
- ・同級生や下級生に対しては高飛車な態度を取ることがあり、上級生や大人にはやや甘えた態度を取る。
- ・発音を間違えて覚えていたり、助詞の使い方が適切でなかったりする。

2 取り組みの構想

U男の実態や諸検査等から次のような指導構想を立てて実践していくことにした。

(1) 指導仮説

肥満からくる運動の緩慢さを自分で気に掛けながら、生活単元学習を中心とする学校生活に組み込み、持っている力を十分に発揮して友だちを導いていくことは、進んで行動をする力や、目的に向かう集中力、責任感を養い、更に色々な活動に取り組む意欲、持久力を育てる。

友好的で人懐っこいが、態度が悪くなりがちなので、ちょっとしたことでも見逃さないで指摘し、適切な態度や具体的な言葉遣いや言い回し方を考えさせ、繰り返し指導すれば、相手や場を意識しながら、言葉を使い分け、相手に不快感を与えずにコミュニケーションを図ることができる。

(2) 指導方針

- ・生活単元学習や、日常生活に、楽しいことや好きなこと、したいこと、出来ることを取り入れ、活動しきらせる。
- ・話し合い活動を多く取り入れ、相手の立場に立った言動を考えさせるようにする。
- ・日記、作文指導を多く取り入れ、発音や表記の間違いを指摘し、修正していく。適切な表現が出来る場合は誉め、定着を図る。

3 指導の実際

(1) 生活単元学習を通して

① 野外炊飯

野外炊飯は、中学部が、最初に取り組む大きな単元で、水以外には何もない場所に行き、昼食を自分達で準備する活動である。何もないので、自分達で、かまどや、薪、昼食の材料を運搬しなければならない。また、この活動のために、食事用のテーブル、椅子、ランチマット等も、製作・準備するのである。この単元は、U男の持っている力を引き出す手だてになると思われた。

お好み焼き作り …食べることには、積極的に参加し、意外にうまく材料などを切ってみせる。自分の食べたい材料を提案してみたり、高カロリーなものは太るからと自分で考えたりして、楽しそうに学習していた。自分のやりたい仕事を最後まですることが出来た。

カップ作り …昨年までの竹を割っただけのコップから持ち手の付いたカップを作ろうと言い出したのはU男である。

アイデアは素晴らしかったが、作業自体は竹の青い部分にこだわり、削る事に一生懸命で完成は他の生徒より遅かった。

野外炊飯当日 …U男達にとって、3年目にして初めての好天に恵まれ、U男特有のふてくされや文句もなく、野外で思い切り活動していた。この单元を通して、U男にとって、楽しいことや、興味のあることは、多少の学習上の障害も、乗り越えられることがわかった。

② ミニキャンプ

ミニキャンプは中学部の生徒を縦割りにして班別で学習を進める行事である。U男は緑班に所属し班長になった。司会はもちろん班長であるU男であるが、他の生徒が意見を発表中であるにもかかわらず、自分の意見をさしはさんだり、自分の賛成出来る意見に他の生徒を強引に賛成させようとする動きが目立った。

出し物練習 …U男が提案した「3匹の子ぶた」に決定し、配役、台詞、台本等の準備はU男自身が準備して来ることになった。U男は、先生から本を借り、出し物が決まった次の日には台本を書いて来ると言う積極性をみせ、他の生徒にも呼びかけて休憩時間にも練習をしていた。

テント張り …自分達で決めた目標「テントを張る」にむけて、U男が中心になって、テント張りを進める。「困った時には先生に聞く」という事が決まっていたが、先生の助けを借りないで最後まで自分達でしようとしていた。しかし、最後には諦め、教師の補助を受けた。

ミニキャンプ当日 …残念ながら雨になり、体育館に泊まることになった。他の班が体育館にあるものを使って囲いのようなものを作ったのに対してU男はテントにこだわった。

体育館でのテント張りは困難を極め、他の班員に指示を出したが、なかなか思ったようにできず途中で諦めてしまった。

③ 大山林間学校

大山林間学校は、先のミニキャンプを受け、班別活動を自分達で計画し、実行できる单元であったU男は、今回は班長を他の生徒に譲り、自分は副班長というポストを要求し、選ばれた。



お好み焼きづくり
「うまくひっくり返せるかなあ」



体育館の中でのテント張り

オリエンテーリング …副班長グループに所属。地図を一枚だけ副班長が持つことになり、磁石や表札等を見て、自分達のいる場所を確認しながら、進んでいった。もっと話し合いをしながら進んで行くものと思ったが、3年生という自覚からか、「自分がしっかりやらないといけない」と思ったのか、話し合いを持つことは余りなくて、みんなをリードする形で進行してしまった。

林間学校当日 …豪円山への登山は、他の班とコースを変え、「僧兵コース」と呼ばれる若干険しい道を登ったり、リフトの下の道を下りたりした。途中滑って、尻もちをつき、泣き出したこともあったが、時間が掛かっても引き返すこともなく、下山できた。しかし、更に阿弥陀堂まで登ろうとすると音をあげてうずくまってしまった。

(2) 日常生活を通して

朝の会 …朝の会は、生徒が自分達で進めるホームルーム的な活動時間である。中学部3年は挨拶、暦、健康調べ、歌・合奏、日記の発表、先生の話というような流れで会を進めている。

その中で、日記発表は生徒がほぼ毎日書いて来る唯一の宿題であるが、自分に起こった事をまとめて発表できる場であると同時に、友達の家生活や自分達の知らない事等を知ることができるコミュニケーションの場でもある。

教師の立場からすると、日常的に文字や言葉の指導ができる絶好の機会である。U男は言葉の中の文字の欠落や助詞の使い方のおかしさが目立つので、日記指導や発表場面で誤った表記や発音を指摘し、集中的に直すように指導してきた。U男自身、間違っていて覚えていることがわかり、教師や友達と一緒に正しい発音や表記を練習する事によって、一人でも正しい発音や表記が出来るようになった。

4 考察と今後の課題

自分の好きな事や考えが学習に取り入れられる生活単元学習は、U男にとって、見通しを持って学習に向かう態度や目的に向かう集中力や責任感、持久力をつけるのに適した学習であると思う。また、「班別学習（行動）」は、U男の自由な発想やリーダー性を引き出すのに有効で、友達を巻き込んで一緒に考え行動しようとしていく姿も見られだした。しかし、U男のわがままを抑制できる生徒がいなかったことは彼の課題を1つ残すことになった。

文字・表記についても、U男が誤って覚えている言葉は、教師の気付かないものも沢山あると思われるが、自ら誤りを直そうとする姿勢はまだ出来ていない。更に、障害の重い子に対して補助

しようとする態度は素晴らしいのだが、それを口実にして、自分のやるべき事をしなかったり、逃れようとしたりする賢さもあり、課題はまだ多い。また、U男の動作の緩慢さの原因となっている肥満についての取り組みも、今後の重要な課題である。



学習中のU男